

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として独自の理念を掲げている。職員詰所前に張り出し、入居者・家族にも理解してもらうよう説明している。	
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自分たちの事業所で行う介護の目指すところとして、理念を職員同士で確認し合っている。職員の方向性が乱れた時など、理念の再確認によって同じ方向に向かえるよう話し合っている。	全員での確認はできているが、職員一人一人が理念の実践に向けて取り組めるよう、会議の場で研修を行うなど、機会を設けていく。
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には、入居時または家族会の際などに理念の説明やそれに向けての取り組みを報告している。しかし、地域に向けては運営推進会議で理念の説明を行うにとどまっておき、近隣の方々には働きかけが不十分である。	運営推進会議を通じて、地域の方々に広くグループホームのことは知ってもらえよう、役員の方をお願いしたり、広報誌の作成を実現して近隣の方々にも知ってもらえよう取り組んでいきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々とは、出会えば会釈や挨拶を職員からするよう、話している。最近では、近隣の方々から声をかけていただくこともある。	挨拶だけではなく、日常的なつきあいができるようにするにはどうすればいいかの、職員全員で考えていく。
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事（作品展・お祭りなど）にはできるだけ参加するように努めている。地元の小学生との交流会や運動会に招待していただいたりする。利用者も地域の人との交流を楽しんでいる。	もっと色々な地域の活動に参加できるよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	現時点では、地域の高齢者の暮らしに役立つこと 二関しては取り組めていない。	認知症高齢者の介護から自分たちが地域の為に役 立つことがないかどうか職員全員で話し合っ ていきたい。また、運営推進会議を通じて地域の高 齢者の方々に役立つことを考えていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	第三者評価を受ける前には、代表者・職員共々に 話し、評価を受ける意義を説明している。職員 には自己評価項目を個々に考えてもらい、自分 の普段の介護を見直す機会に利用している。評価 後には結果を代表者・職員に報告し、今後の取 組みについて話し合っている。	評価の意義については話し合っているものの、具 体的に改善できるところが少なく、もっと職員全 体で改善に取り組めるよう努めていきたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	毎回、開催時にはグループホームでの取り組みや 近況を報告している。また役員からの指摘や意見 は、今後のサービスに生かしている。	
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	運営推進会議で意見交換を行うこと以外ではあ まり行き来はないが、電話での相談をしたりす ることがある。	町の担当者にもっとグループホームでの取 組みを理解してもらうためにも、連携を しっかりとっていききたいと思う。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう 支援している</p>	まだまだ理解が浅く、必要性のある方が いても活用できていない現状である。	今後、研修などに積極的に参加していき、 また内部研修の議題に盛り込んで職員全 員で理解を深めていきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止 関連法について学ぶ機会を持ち、利用 者の自宅や事業所内で虐待が見過 ごされることがないよう注意を払い、 防止に努めている</p>	虐待については、常々職員と話し、 虐待防止に向けて報告を強化したり、 会議の中で話し合っている。しかし、 法に基づいての話し合いは不十分 である。	法の重要性を職員全員で理解し、把握 していきよう取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、ゆったりと時間をかけて家族や利用者の不安がないよう説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見・不満・苦情が出た場合は、真摯に受け止め、今後の運営に反映させている。必要ときは、運営推進会議での報告も行っている。</p>	<p>利用者が気軽に意見を言い出せる環境を作っていきたい。またその意見を公表し、運営にいかすようにする。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の状態については、金銭面、身体面すべてにおいて、個々に報告を行っている。職員の異動に関しては、担当の利用者様には報告を行うも、全体としては報告が不十分である。</p>	<p>今後は運営推進鍵や家族会を活かして、職員の異動を含め、報告が行えるようにしていきたい</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が職員・管理者に個々に意見や苦情を伝えられることはある。それを外部者に表せるには至っていない。</p>	<p>家族の方にも気軽に意見や苦情を言える仕組みを整えていきたい。その意見を施設運営に反映していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に行っている職員会議で意見を聞いたり、職員一人一人と話をすることで、意見を聞き、運営にいかしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の要望はあるが、すべてに対応できていない。今の現状でできる範囲の努力はしている。</p>	<p>利用者・家族の要望に少しでも応えていけるよう、運営者とも話し合いを重ね、職員の調整を行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの関係を壊さないよう、職員の入れ替えは必要最小限に抑えている。代わった場合は、利用者の不安や混乱が起こらないよう、他の職員がカバーするようにしている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員には個々の経験や段階に応じた研修への参加について積極的に声かけを行っている。</p>		<p>年間を通じて、学ぶ機会を職員全体に有効に活用できるよう配慮していきたい。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の事業所と連絡会をもち、管理者・職員がお互いに意見を述べたり、相談をしたり情報交換を行っている。</p>		
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>定期的な会議の場を、職員の意見交換の場とすることもある。休憩時間には職場から離れて気を休められる場所も確保している。職員全員で食事をしたり、職員と一対一で面接をして気軽に意見・苦情を言える機会を作っている。</p>		<p>職員がストレスを溜めずに職務できる工夫と環境作りを運営者と共に考えていきたい。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的に面談を行い、個々の取り組みについて評価している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者本人に聞ける場合は、本人の要望、不安なことを時間をかけてゆっくりと聴くようにしている。はっきりと伝えられない場合も、本人の発するサインから不安を把握できるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用までの面接、契約を交わすまでに会う機会を利用し、家族が抱える不安や要望をできる限り受け止められるようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受ける中で、必ずしもグループホーム入居が適切でない場合もあり、家族と本人の意見を尊重しながら、本人にとって最適なサービスを選択できるよう支援している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>必要な方には、本入所の前に短期間の体験利用を行ったり、何度か見学を重ねて雰囲気慣れてもらうなど、その人に合った対応をしている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者が同じ目線に立って生活を共にし、家事や食事など利用者と一緒にしよう努めている。利用者から学ぶ姿勢を忘れないよう努力している。</p>	<p>介護している、介護されるという関係をなくし、どんな小さなことでも利用者が職員に相談できるような信頼関係を築いていけるよう、職員全員で話し合いを重ねている必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	職員側から、一方的に話をするのではなく、家族の状況なども考慮し、会話するよう心がけている。コミュニケーションの困難な利用者にも職員が家族との間に入ったり、家族と利用者のみでの時間も大切にしている。		どの家族とも、家族会の参加を促したり、行事を通じてなじみの関係が築いていけるように働きかけていきたい。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者との家族の関係がよりよい方向に向かっていけるよう、職員から家族へ提案をしたり、働きかけを行っている。		すべての入居者が家族と良い関係を築き、家族の輪が広がっていけるように働きかけを行ってきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃、利用者から聞き取った情報を家族にも報告し、家族に協力してもらい地域の行事に参加されたり、馴染みの人の面会をお願いするなど働きかけている。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性などを考慮し、孤立する利用者がいないよう、席順を決めたり、職員が間に入って関係を保てるよう支援している。		利用者同士の支え合いを大切にできるよう、環境を整え見守っていききたい。入居者全員で楽しめる機会を増やしていく。
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院が長期になり利用終了をした方については、お見舞いを継続していき、関係を断ち切らないようにした。		今後、サービス利用を終了しても、利用者や家族がスムーズに次のサービスへ移行できるよう関係機関と連絡・調整できる体制づくりをしていく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1.一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活、利用者との会話の中から把握できるよう努めている。職員一人一人が得た情報を、会議で全員が把握できるようにしている。</p>	<p>意思伝達の困難な方に対する要望の把握に努めていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者との会話以外でも、面会に来られた家族や知人などからも情報を得るようにしている。</p>	<p>家族や利用者本人から知り得た情報をもとに、その人の習慣や馴染んだ暮らし方を一部でも再現できるかわり方を考えていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一日の過ごし方はほぼ把握できているが、日々変わっていく心身状態と有する能力の把握は不十分なところがある。</p>	<p>職員一人一人が気付いたことを全員で共有し、利用者と接するすべての場面を活かし習慣や好みを観察していく努力をしていく。</p>
<p>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>普段から利用者・家族から介護についての要望を聞いたり、必要の時は第三者の意見も取り入れ活用している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>重要視すべき課題に対しての見直しはしているが、計画書に沿った見直しは不十分な所もある。</p>	<p>期間に沿った見直しを、利用者・家族と共にできるようにしていく。評価の内容を書面にし、明確に伝えられるよう取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践などは個々の記録に記載している。小さな変化も見過ごすことがないように申し送りを徹底し、職員間で共有できるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、併設のデイサービスを利用したりしている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の文化祭の作品展へ出品をしたり、ボランティアの協力で定期的に演奏会を開いていただいている。		
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議、グループホーム連絡会などを通じて他のサービス事業者との交流を深めている。		地域資源を活かして、要望があれば他のサービスも利用できるように他のサービス関係者とも交流を深めていく。
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では、権利擁護に該当する利用者はいないため、地域包括支援センターとの協働はしていない。		今後、利用者にとって必要になった場合を考え、地域包括支援センターと協働できる体制作りをしていく必要がある。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や、かかりつけ医の往診により、日中・夜間問わずいつでも連絡が取れる体制をとっている。状態の悪化時にも迅速に対応できるようにしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じてかかりつけ医より専門医の紹介をしてもらうこともある。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を持つ職員が健康管理や病院との連絡調整を行ったり医療面での管理を行っている。また、併設の事業所の看護師にも利用者のことを知ってもらい、職員が相談できる体制をとっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には利用者の状態、特に本人の認知症の対応方法を細かく病院関係者に伝えるようにしている。医師と連絡を密にし、早期退院にむけた話し合いをしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、終末期のあり方については口頭で利用者、家族双方の希望を聞き取るようにしている。明確に全員で方針を共有することは不十分である。		利用者一人一人の方針を書面で明確にしておく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の利用者に対して事業所として、職員全員でどこまでできるのかは話し合っている。医療関係者とも連絡体制はとれているが、チームとして支援していく体制は確立されていない。		終末期の利用者に対する支援の方針をかかりつけ医と相談し、検討していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には、本人や家族からこれまでの生活習慣をきき、ケアマネージャーからも情報提供をしてもらっている。全く異なった環境に少しでも落ち着けるよう、本人の使い慣れた家具や、着慣れた衣類などを持ち込んでもらうようお願いしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけの口調、声のトーン、話す早さ、声の大きさに気をつけている。利用者の立場・視点に立って配慮した対応をしている。個人に関する記録物に関しては職員全員に個人情報に関する誓約書をとっている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の自己決定を尊重している。一人一人に合った言葉かけを行い、できる限り意志を引き出せるかわりを行っている。		ゆっくりと余裕を持って一人一人の自己主張を尊重できるよう職員全員で取り組んでいきたい。
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日をどのように過ごすのか利用者と一緒に決めたり、自由に過ごせるよう見守りを行っている。		職員は業務優先にならないよう常に見直しながら、利用者全員がその人らしい過ごし方ができるよう、状態を把握していくよう努める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪はボランティア訪問により行っている。馴染みの関係ができてきており、利用者それぞれが好みの髪型や要望を伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いに応じて食材を替えるよう対応している。食事の準備は職員と利用者が一緒に行っている。		
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	週に三回の買い物外出で、個人の好きな物を買ってもらっている。買い物に行けない利用者には、欲しい物を聞いて職員が買ってくることもある。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導の時間や介助方法など個々に合わせた対応をしている。一人一人の能力を見極め、できるところは本人にしてもらい、羞恥心に配慮しながら支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の勤務態勢上、一人一人の要望に合わせた時間帯での入浴はできていない。入浴の順番や仲のいい利用者同士がゆっくりと入浴できるよう配慮している。		職員の勤務態勢を見直し、夜間の入浴にも対応していけるよう検討していきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活習慣から睡眠パターンを把握している。できる限り薬に頼らず眠れるよう努めている。不眠時には、不安を解消できるよう、話をしたり、添い寝や温かい飲み物で気持ちを落ち着けられるよう働きかけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のもてる能力を把握し、それを発揮できる場を提供している(作品づくり、家事、歌など)		利用者のできる可能性をさらに見出していけるよう、職員一人一人が利用者のできることを発見し、全員で共有する取り組みを行っている。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理は施設が行っているが、買い物の際には、利用者に財布をもってもらい、自分でお金を払ってもらうよう支援している。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の希望を聴きながら、事業所外への散歩も行っている。併設の事業所の利用者との交流も楽しまれている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>家族の協力を得て、実現している利用者もいるが、機会は少ない。</p>		<p>職員の勤務時間の調整を行ったり、家族への働きかけを強化し、外出の機会を増やしていきたい。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の希望時には、電話の介助を行っている。家族からの手紙を代読したり、利用者から家族へ年賀状を出す際には、職員も手伝い支援した。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>いつでも訪問できるよう、玄関の鍵は解放している。ゆっくりと過ごしてもらえよう場所の提供をしたり、お茶を出してくつろいでもらえるよう配慮している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束について、会議等職員全員で話し合う機会を設けている。</p>		<p>すべての職員・運営者が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について理解があるとは言えず、今後研修をしていく必要がある。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることで起こる利用者への混乱や弊害を理解し、やむを得ず鍵をかけるなどの拘束を行う必要がある場合には、利用者・家族に同意を得るようにしている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間でのコミュニケーションを密にし、連携をとりながら利用者の様子を確認している。		確実に利用者の安全が確保できるよう、状況に合わせて、職員の連携体制を見直していく必要がある。随時話し合いをする機会をつくっていく。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険が及ぶ可能性のある物については、こちらで管理する場合もあるが、利用者の能力に合わせて物の所在を職員が把握しておき、見守っておく場合もある。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた場合は事故報告書に記録し、職員会議で事故の検討、防止に向けての取り組みを決めている。		一人一人に応じた事故防止に向けて、その方針と対応方法を検討していく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時・急変時のマニュアル作成 内部研修にて応急処置や急変時の対応方法を学んでいるが、定期的な訓練まではできていない。		職員全員が急変や事故発生時に適切な対応ができるよう、日頃から理解を深め、定期的に訓練していくよう努める。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回行っており、実際に利用者にも避難してもらっている。地域の人々の協力への働きかけは不十分である。		起こりうる災害に対して避難方法を整えておく必要がある。また地域の人々への働きかけも行っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		<p>状態が変わってきた場合の家族との話し合いが十分に行えるよう、計画書に反映させる等して対応策を検討していきたい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>下剤を使用する場合、利用者にあった薬の種類や量、服用の時間帯などの調整をしていく。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、それに沿った対応をしている。予防については職員、利用者ともに手洗い・うがいを励行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や調理器具は洗浄後、乾燥機にて熱消毒をしている。ふきん、まな板、包丁など定期的に塩素消毒を行っている。調理した食材や生ものはその日のうちに処分するか、消費期限を厳守している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に生花を飾ったり、入居者の作成した壁飾りを掲示すりなど、明るい雰囲気でも来訪者を迎えられるよう配慮している。玄関にソファを配置し、腰を下ろせるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、行事ごとの写真を貼るなどして季節感を出すようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールから少し離れた場所にソファを設置し、一人になれる空間を作っている。椅子を余分に置いて、好きなところで誰とでも話ができるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安心して過ごせるよう、本人の使い慣れた家具や着慣れた衣服、家族の写真などを持ち込んでもらうよう家族にお願いしている。		
84 換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員が利用者に聞きながら、室温や湿度の調整をこまめに行っている。一日に一回は窓を開けて換気をしたり、においが気になるときは換気扇を回して空気の入れ換えを行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分には手摺りを取り付け、建物内部は段差を無くし、車椅子にも対応できるようトイレの広さも備えている。		
86 わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人ができる限り自立して生活できるよう、見やすい位置に張り紙で名前を示したり、タンスに表示をつけて整理できるよう支援している。また本人が自力でできるよう言葉かけを工夫している。		入居者の状態の変化に応じた対応ができるよう、職員間での情報確認を密にしていき、統一したケアができるよう取り組んでいく。
87 建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りは車の往来が激しいため、利用者の希望に応じて職員が付き添っていくようにしている。敷地内では安全に利用者が出入りができるよう、建物と庭の間には踏み台を取り付け、見守りをしながら利用者が自由に出入りできるよう支援している。		外回りの整備も検討していきたい。

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・家庭的な環境を大切にしており、利用者と職員という関係ではなく一緒に生活していくという考えで取り組んでいる。馴染みの関係も出来てきており、冗談を言ったり、本音でぶつかり合うこともあるが、お互いの理解が深まってきている。利用者同士の助け合いの気持ちを大切に、職員は極力手を出さないよう見守りを行っている。出来るだけ心身ともに安定した生活が送れるよう支援し、下剤や安定剤の服用をせず、食事の工夫や一日の暮らし方を工夫している。